

北アフリカのイスラーム急進派「マグリブ・イスラーム諸国のカーイダ」の成立と現状

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程 若桑 遼

はじめに

本稿では、北アフリカのイスラーム急進派 AQMI (「マグリブ・イスラーム諸国のアル=カーイダ al-Tanzīm al-Qā'idat al-Maghrib al-Islām」) を取り上げる。そしてその成立を振り返り、同組織のインターネット上のサイトとツイッターにアップロードされた各種の声明の分析をつうじてその現状を明らかにする。とくに 2013 年 1 月にフランスがマリの軍事介入する直前に AQMI の現指導者アブー・ムスアブ・アブドゥルウドゥードが行ったビデオ声明を取り上げ、AQMI の行動の「内在的論理」を解明する。

1. AQMI の成立

まず AQMI の成立過程を簡単に整理する。1991 年 12 月、アルジェリア立法議会選挙でイスラーム政党である「イスラーム救済戦線」(FIS) の選挙結果が取消されたことに端を発し、10 万人以上の犠牲者を出したと推定される武装勢力と体制側の衝突が起こった。体制を非難するイスラーム主義運動には、大きく分けて二つの潮流ができた。「武装イスラーム運動 (MIA)」と、「武装イスラーム集団 (GIA)」である。後者は、アルジェリア当局との全面戦争を辞さない強硬な姿勢をとった非常に過激な思想をもつ武装集団であった。GIA は都市貧困青年層の共感を得て、やがてさまざまな潮流が合流した。GIA の行動を教義面から正当化し、現地のジハードと国際的なジハード運動をつなぐ役割を果たしたのは、ロンドンで発行される機関紙『アンサール (al-Anṣār)』であった[ケペル 2006: 350-1]。これを発行したのは、ロンドン在住のシリア人アブー・ムスアブ (Abū Muṣ'ab al-Sūrī) とパレスチナ人アブー・カタダ¹ (Abū Qatāda al-Filastīnī) である。

1997-8 年ハサン・ハッターブ (アブー・ハムザ) は、「ダアワと戦闘のためのサラフィー主義集団」(GSPC) を設立した。GSPC は 1990 年代末、GIA のヨーロッパおよび北アフリカの組織網を整備し、混迷するアルジェリアの主要な武装集団に成長した。GSPC の主要な指導者は、GIA の幹部で、のちの AQMI の指導者となる人物を含んでいた。そのような人物に、ムフタール・ベルムフタール (ハーリド・アブー・アッパース)²、アブドゥルマーリク・

¹ Abū Qatāda al-Filastīnī. ヨルダン出身。ロンドンに亡命。当地で『アンサール(支援者)』を発行し、GIA のジハードを正当化する役割を担う。サラフィー・ジハード主義のイデオログ[ケペル 2006: 360-1]。国連・アル=カーイダ制裁リスト(QI.M.31.01.)を参照。

² Mukhtār Belmukhtār. アルジェリア・ガルディーヤ出身。国連・アル=カーイダ制裁リスト(QI.B.136.03)を参照。

ドゥルークディール(アブ・ムスアブ・アブドゥルウドゥード)³がいる。

2001年9月11日の米国同時多発テロルは、GSPCに少なからぬ影響を残した。アル=カーイダによる9月11日の攻撃を支持したあと、GSPCに対する賛同が増加し、GIAの旧地区の再編成が行われた。またイラク攻撃と同盟軍による占領は、グループ内部の強い緊張を再燃させ、イラクのジハード支持派が生まれた。

2006年秋、GSPCはアル=カーイダの傘下に入った。9月、母体アル=カーイダのナンバー2であったアイマン・ザワーヒリーは、9月11日を記念するビデオのなかで、GSPCがアル=カーイダの旗を受け入れることを「喜ばしいニュース」として公表した[Mokaddem 2010: 163-4; Durand 2011: 32]。GSPCの長アブ・ムスアブ・アブドゥルウドゥードは、翌年2007年1月24日に声明を出し、GSPCの一切の活動は「マグリブ・イスラーム諸国のカーイダ」の名前のもと行われると宣言した。イスラーム・マグリブ諸国のアル=カーイダは、アブドゥルウドゥードの直接的指揮のもと、再編成され、活動領域を拡大させた。AQMIは、GSPCの地区区分を発展させた4つの地区の構造をもつ。中央地区、東地区、西地区、南地区である。サハラおよびサーヘル地域の活動範囲は、ほぼこの「南地区」に相当する。

2. AQMIのメディア

近年のイスラーム急進派組織は、インターネットを用いてその活動の痕跡を残す傾向をもつ。保坂によれば、これらの急進派組織は非合法であるため、従来綱領・声明の入手は困難であった。しかし「1990年代後半からはさまざまな組織がインターネット上にプレゼンスを維持するようになり、とくに9.11以後はオンライン上でのプロパガンダ、声明の発表が一般化してきた」[保坂 2008: 318]。アル=カーイダは1990年代以降、広報活動が最重要戦略に位置づけ、21世紀以降インターネットやコンピュータを活用するようになってきた[保坂 2010: 100]。アル=カーイダの傘下のAQMIの場合、それほど活発ではないが、「アンダルス・メディア機構(Mu'assasa al-Andalus lil-Int j al-l'lm)」と呼ばれる広報部門をもつ。

(1) AQMIの広報部門：アンダルス・メディア機構

このアンダルス・メディア機構は、指導者の演説やキャンプの様子を撮影したビデオ映像を一般のアップローダを使いウェブ上に公表している⁴。アンダルス・メディアは、フランスのマリ軍事介入後の2013年3月、Andalus_Mediaという名でツイッター上に公式アカ

³ Abd al-Mālik Drūkdāl (Abū Mus‘ab ‘Abd al-Wudūd) アルジェリア・ブリーダ出身。国連・アル=カーイダ制裁リスト(QI.D.232.07)を参照。

⁴ 米国カリフォルニア州に本部を置くインターネット・アーカイブ(The Internet Archive)という非営利団体が運営するデジタル・ライブラリーには、アンダルス・メディア機構の作成した声明・ビデオ映像が過去のものも含めて無数にアップされている。一度組織がこれらをアップすると、ジハード支援有志による再アップが繰り返されるためである。同団体のURLは <https://archive.org/> である。

ウント⁵を開設した。これは AQMI の「機関紙」のような役割を果たしており、AQMI 側の動向を知る上では有益な情報源のひとつとなっていた。各種の声明や説教、論考、ビデオ映像などを配信していたが、同年 12 月末にアカウント自体が凍結された⁶。現在は公式サイト⁷が残るのみであるが、こちらも 2013 年 8 月から更新が止まったままである。

(2) マリ紛争に関するアブー・ムスアブ・アブドゥルウドゥードの声明

この声明は AQMI の現在の指導者アブー・ムスアブ・アブドゥルウドゥードがマリ侵攻の開始前(2012 年 11 月 15 日)に行ったものである⁸。ヒジュラ暦(イスラーム暦)の元日(ムハラム月 1 日)に合わせて行われていることから、組織にとってこの声明がとくに重要性の高いものだということが推察される。動画は全長 26 分 11 秒である。アブー・ムスアブ・アブドゥルウドゥードのアラビア語による独演が主であるが、主張を裏付けるために、ところどころにテレビのドキュメンタリー映像やニュースの抜粋が挿入されている。

(a) AQMI の世界観

彼らは自分たちで想定する敵を「十字軍(al-ṣal b /al-ṣal b ya)」と呼ぶ。声明では、宗教間の戦争をイメージさせる「十字軍」という言葉を現代に拡大し、ヨーロッパ植民地主義やシオニズムのイメージと重ね合せ、アメリカ、フランスを含む西洋、シオニストと結びつけて用いている。このような見方は、アル=カーイダの創設者であったウサーマ・イブン・ラーディンや彼の思想の支持者たちのあいだでも採用される。彼らの敵である「十字軍」は、直接的にはフランス、西洋、シオニストを指すが、文脈から考えて国連やアフリカ諸国が派遣する部隊も含められる。ここでは「イスラーム(正確には、AQMI とその同盟者のみを範囲とする)対キリスト教的西洋・シオニスト(およびそれを支持する諸国家)」という極めて単純な二項対立的な世界観が成立している。

(b) 「十字軍」に対峙する自己イメージ

「十字軍」の侵攻に対して彼ら自身は、不当に抑圧されたイスラーム共同体(ウンマ)の宗教と土地を防衛・解放するムジャーヒディーン(ジハード戦士)である。声明のはじめの呼びかけは、世界中「あらゆる場所(f kull mak n)にいる私のムスリム同胞」に向けて行われており、声明の向こうに世界のムスリム、とくにジハード主義者の眼があることが意識されている。彼らの目から見ると、フランスによるマリの軍事介入は、パレスチ

⁵ https://twitter.com/Andalus_Media. (最終閲覧 2013 年 12 月 18 日)

⁶ これらの声明・論考の多くは、AQMI のスポークスマン、アブー・アブドゥルイラーヒ・アフマド・ジャイジャー(本名アフマド・ダグダグ)によるものであると考えられる。

⁷ <http://andalus-media.blogspot.jp/> (最終閲覧 2014 年 12 月 18 日)

⁸ 先述のインターネット・アーカイブ上で確認される声明。フラサーン・バラグ・メディア(Fursān al-Balāgh lil-I'lām)というジハード支援グループの英語訳、仏語訳を字幕で付したバージョンも見られる。

ナ、イラク、アフガニスタン、ソマリアと同種のもの、すなわち「シオニスト十字軍がムスリムの土地に対して行う侵略の連鎖」である。彼らは「聖なる戦争」を実行するのはイスラーム共同体を防衛するためである。

(c) 6つの「メッセージ (al-ris la)」

この声明のなかで AQMI の指揮官アブドゥルウドゥードは、6つの「メッセージ」を送ると言う。

第1に AQMI はフランスのマリへの軍事介入を「フランスによる不正な代理戦争」と呼ぶ。彼らの考えによれば、フランスによる戦争開始の動機は、サーヘル地域の諸国家が所有する天然資源（ニジェールのウランウムと石油、マリや周辺諸国の金とダイヤモンド、あるいはコートジボワールのカカオ）を獲得（「略奪」）するためである。彼らはフランスがマリで軍事的プレゼンスをもとうとする理由をこのようにみている。

第2に AQMI は「防衛のためのジハード」を原則とすると明言している。声明によれば、その目標は「シオニスト十字軍の同盟を攻撃の対象とすることをとおして、自分たちの宗教、自分たちのウンマの利益を防衛すること」なのである。したがってアフリカ諸国やその人びとは AQMI の攻撃対象とはならない。しかしその反面、自分たちが外部からの攻撃を受けた場合、「自己防衛」として報復を加えることがここで示唆されている。

第3番目以降は個別の対象へと向けられたメッセージとなっている。はじめに「マリのムスリム人民」へ向けた忠告がなされる。AQMI の認識では、マリは紛れもない「イスラームのウンマ」の一部をなしている。マリの問題は、当事者であるマリの内政問題であり、西洋（「十字軍」）による介入なしに、ムスリム同士の調停により解決が可能である。マリ、およびその人民の統一を達成する〔唯一の〕手立ては、「イスラーム的企図 (al-mashr al-isl m)」を用いることである。この文脈で、彼らはマリ北部を制圧したアンサール・ディーンへの支持を要請する。

第4、第5番目として、アフリカとフランスの人民へのメッセージが扱われている。AQMI の活動は西洋による彼らに対する奴隷的搾取から解放するものとして、AQMI の行動が正当化されている。その一方、「フランス」の人民に対しては、フランスの軍事行動は、オルラン大統領の個人的・政治的打算によるものであり、軍事介入の遂行は、自国民の犠牲を増やし、ひいては経済的凋落を生むと警告されている。

最後に声明は、フランスとアフリカの指導者へ向けたメッセージで締めくくられる。AQMI は和平を望むものの、戦争を望むのであれば、これに「神の力をもって」耐え忍び、勝利するであろうという内容である。彼らは「自己防衛」のためには大国およびアフリカ周辺諸国との戦闘も辞さない非常に攻撃的な態度をとっている。

おわりに

本報告では、AQMI の行動の成立と現状、および「内在的論理」を、組織の声明の翻訳・

分析をとおして「実証」することを試みた。報告内で参照にした保坂らの指摘からもわかるようにウェブ上に残された無数の痕跡は、イスラーム急進派の動態を把握するには欠かすことができない。サハラ、サーヘル地域と密接に関連した北アフリカにおけるイスラーム急進派に関する研究は、我が国では蓄積がなく、邦語で接近できる基礎資料を整備・作成することは急務である。本報告で確認されたとおり、AQMI の思想は、それ自体で独自性をもつものではなく、アル＝カーイダをはじめとするその他のジハード主義組織の主張と根本的には大差ない。しかしジハード主義的思想をもとに、当該地域の国際的・内政的な環境を取り込み、新たな形態で表現している点で地域固有の特徴を有する。急進派の伸長と台頭を考える場合、これらの思想と、構造的・政治的・経済的要因とを加味しなければならないであろう。

文献

エスポズイト、ジョン・L (塩尻和子・杉山香織監訳) 2004. 『グローバル・テロリズムとイスラーム：穢れた聖戦』明石書店。

ケペル、ジル (丸岡高弘訳) 2006. 『ジハード：イスラム主義の発展と衰退』産業図書。

保坂修司 2008. 「イスラーム急進派」小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会。

2010. 「アフガニスタンにおけるカーイダの現状」保坂修司編『アフガニスタンは今どうなっているのか』(Kyoto Series of Islamic Area Studies 3) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター (KIAS)。

Durand, Gwendal 2011. *L'Organisation d'Al-Qaïda au Maghreb Islamique : Réalité ou manipulations ?* Paris : L'Harmattan.

Kepel, Gilles and Jean-Pierre Milelli 2008. *Al Qaeda in its own words*. Translated by Pascale Ghazaleh. Cambridge, Mass. : Belknap Press of Harvard University Press

Mokaddem, Mohamed 2010. *Al-Qaïda au Maghreb Islamique: Contrebande au nom de l' Islam*. Paris : L'Harmattan.